

平成29年度

第14回 東京都高等学校体育連盟
研究大会 紀要



期日 平成30年2月17日(土)
会場 目白大学
主催 東京都高等学校体育連盟
後援 東京都教育委員会
主管 東京都高等学校体育連盟研究部
協力 目白大学
東京都高体連ホームページ

<http://www.tokyo-kotai ren.gr.jp>

大会日程

<<開会式>>

15:00~15:20

1. 開会のことば	東京都高等学校体育連盟研究部部長	庄司 一也
2. あいさつ	東京都高等学校体育連盟会長	久保 淳
3. 祝辞	東京都教育庁指導部体育健康教育担当課長	佐藤 浩
祝辞	元東京都高等学校体育連盟会長	山崎 正己

【講演】

15:20~16:20

質疑応答 10分

「オリンピックと嘉納 治五郎」

筑波大学体育専門学群長

筑波大学オリンピック教育プラットフォーム事務局長

真田 久

<< 休憩 10分 >>

【全国高体連研究大会 報告】

16:40~17:00

各分科会 5分

<課題研究>	新井 理仁(都立東大和高等学校)	ソフトボール専門部
<競技力向上>	田中 康之(都立立川高等学校)	サッカー 専門部
<健康と安全>	堀越 和彦(日本学園 高等学校)	自転車競技 専門部
<部活動の活性化>	鞠子 智秋(都立清瀬 高等学校)	サッカー 専門部

【研究発表】

17:00~17:55

各発表 25分

質疑応答 5分

<競技力向上> 「理想的な疾走フォームを探る」～地元東京から東京五輪出場を目指して～

東京都高体連研究部 第1分科会 陸上競技専門部

巣鴨高等学校 黒木 義郎

<健康と安全> 「学校水泳で注意すべきこと」

東京都高体連研究部 第2分科会 水泳 専門部

東京大学教育学部附属中等教育学校 井口 成明

<<閉会式>>

17:55~18:00

1. あいさつ	東京都高等学校体育連盟 理事長	奥秋 將史
<司会者>	東京都高等学校体育連盟 事務局長	采野 慶明

目次

あいさつ	東京都高等学校体育連盟会長	久保 淳	1
大会役員			2
開催要項			3
講演			
	「オリンピックと嘉納治五郎」		
	筑波大学体育専門学群長		
	筑波大学オリンピック教育プラットフォーム事務局長	真田 久	4
研究発表			
	＜競技力向上＞「理想的な疾走フォームを探る」～地元東京から東京五輪出場を目指して～		
	東京都高体連研究部 第1分科会 陸上競技専門部		
	巢鴨高等学校	黒木 義郎	
	＜健康と安全＞「学校水泳で注意すべきこと」		
	東京都高体連研究部 第2分科会 水泳専門部		
	東京大学教育学部附属中等教育学校	井口 成明	
研究部規約			
研究部 組織と名簿			
調査用紙			
	「平成29年度 第52回全国高等学校体育連盟 研究大会紀要（抜粋）」		



研究大会に寄せて

東京都高等学校体育連盟

会長 久保 淳

平成29年度、第14回東京都高等学校体育連盟研究大会が、研究部を中心に各競技専門部の皆様のご協力と関係者の方々のご支援により開催できますことを心より感謝申し上げます。本連盟は、「競技力向上」と「研究」を両輪と捉えて活動しており、この研究大会は、東京都高等学校体育連盟に加盟する各専門部の体育・スポーツ指導者の資質向上を図ることを目的としています。

今年度も「競技力向上」「健康と安全」「部活動の活性化」の3分科会のテーマについて発表が行われます。また、この1月に島根県で実施された全国高等学校体育連盟研究大会の報告も行われます。これらの研究発表が高等学校教育の一環としての体育・スポーツの振興発展に資するものとなりますことを期待しています。

さて、昨年夏、平成29年度全国高等学校総合体育大会「はばたけ世界へ 南東北総体2017」が、山形県、宮城県、福島県、の南東北3県と和歌山県（ヨット）の4県において開催され、各専門部の先生方のご尽力のおかげで成功裏に終了いたしました。東京勢の活躍も素晴らしく、陸上競技、体操、新体操、ソフトテニス、ハンドボール、水泳、レスリング、空手道で優勝校・優勝者を出すことができました。その他の競技においても「チーム東京」を合言葉に、選手一人ひとりが最高のパフォーマンスを発揮し、観る人に勇気や感動を与えることができました。これもひとえに各専門部の先生方の、熱い情熱や深い愛情によるご指導の賜物と感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

いよいよ、東京オリンピック・パラリンピックが2年半後に迫ってきました。国民の関心も徐々に高まり、現高校生の出場の可能性も本格化してきました。この機会を通じ、競技力のさらなる向上だけでなく、安全対策や体罰根絶など競技者や指導者の意識向上にも目を向けていくことが大切かと思われます。

また、昨年度来、課題となっている2020インターハイ問題は、全国高体連事務局を中心に全国の高体連関係者の尽力により、徐々に解決の方向に向かっています。しかしながら、まだまだ課題はあります。今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

さらに、全国的に注目されている「働き方改革」として、中学校・高等学校での部活動についても問われています。中高生の体力面だけでなく人間形成においても大きく関与している部活動ではありますが、その在り方や活動内容など東京都高体連としても今一度顧みる必要はあると考えています

結びに、本研究大会の開催に向けご尽力いただきました研究部を始め関係専門部の皆様や、会場を提供していただいております目白大学を始め、ご支援いただきました多くの関係者の方々に感謝申し上げますご挨拶とさせていただきます。

平成29年度第14回東京都高等学校体育連盟研究大会 役員

会 長	久保 淳				
副会長	畑澤 正一 高坂 仁	高橋あゆち	鯨岡 廣隆	平池 徳見	高野 幸代
参 与	奥秋 將史 田中 茂好	池戸 成記 各専門部部長	杉淵 明子	采野 慶明	渡辺 洋司
委員長	庄司 一也				
副委員長	塩田 伸隆	中塚 義実			
委 員	黒須 崇仁 高倉 千草 新井 理仁	堀越 和彦 征矢 範子 牧野 飛人	柳澤 左門 阿部 一臣 倉田あゆみ	鞠子 智秋 工藤 慶之 各専門部代表研究部委員	奥 正克 秋月 隼

運 営 役 員

総 務	塩田 伸隆			
総務員	中塚 義実			
渉外・接待	高松 清	橋爪 里実	齋藤 香	
会 場(来客席確保)	工藤 慶之			
会 計	新井 理仁			
紀 要	塩田 伸隆			
(表紙)	都立晴海総合高校			
記 録(写真)	高倉 千草			
記録(録音・テープ起し)	鞠子 智秋			
受 付	新井 理仁	征矢 範子	黒須 崇仁	阿部 一臣
司会者	采野 慶明			
発 表	黒木 義郎	井口 成明		
全国高体連研究大会報告	新井 理仁	田中 康之	堀越 和彦	鞠子 智秋

平成 29 年度

第 14 回東京都高等学校体育連盟研究大会

開 催 要 項

- 1 趣 旨 東京都高等学校体育連盟に加盟する各専門部の体育・スポーツ指導者の資質向上を図るために日ごろの研究、指導の成果を発表するとともに高体連の直面する諸問題について情報交換し、高等学校教育の一環としての体育・スポーツの振興発展に資する。
- 2 主 催 東京都高等学校体育連盟
- 3 後 援 東京都教育委員会 (申請予定)
- 4 主 管 東京都高等学校体育連盟研究部
- 5 期 日 平成 30 年 2 月 17 日 (土) 15 時 00 分 ~ 18 時 00 分
- 6 会 場 目白大学 新宿キャンパス 〒161-8539 新宿区中落合 4-31-1
西武新宿線「中井」・都営大江戸線「中井」駅より 徒歩 8 分
- 7 参 加 者 東京都高等学校体育連盟加盟校の体育・スポーツ指導者
東京都高等学校の部活動に興味関心を持つ指導者・研究者・学生
- 8 内 容 (1) 講 演 講師 真田 久 氏
(筑波大学体育専門学群長
筑波大学オリンピック教育プラットフォーム事務局長)
(2) 全国高体連研究大会 報告 課題研究・3 分科会
(3) 研究発表 (全体会) 2 テーマ
「競技力の向上」 (競技力) 1 テーマ <陸上競技専門部>
「健康と安全」 (安 全) 1 テーマ <水 泳 専門部>

※各発表テーマ・講演内容は、<http://www.tokyo-kotairen.gr.jp>に掲載します。

- 9 時 程 14 時 30 分 受付
15 時 00 分 開会式
15 時 20 分 講演 60 分。 質疑応答 10 分
——休憩 10 分——
16 時 40 分 全国研究大会 報告 各分科会・課題研究 各 5 分
17 時 00 分 発表 各発表は 25 分 質疑応答 5 分
17 時 55 分 閉会式

10 参加申込み

参加申し込みは、所定の用紙に必要事項を記入の上、各専門部で一括して申し込む。
個人の申し込みは、下記申込先に直接連絡する。

申込先 〒156-0045 東京都世田谷区桜上水 4-3-5
都立松原高等学校内 塩田 伸隆
Tel 03-3303-5381 FAX 03-3304-3062

申込期限

平成 30 年 1 月 15 日 (月) 必着

講演

「オリンピックと嘉納治五郎」



真田 久

筑波大学

《プロフィール》

1979年筑波大学体育専門学群卒、1981年同大学院修了。現在、筑波大学体育系教授。体育専門学群長。博士（人間科学）。古代および近現代のオリンピック史や嘉納治五郎に関する研究に従事。2010年設立のIOC公認「筑波大学オリンピック教育プラットフォーム」事務局長として、附属学校とともにオリンピック・パラリンピック教育の全国展開に携わる。2014年に政府事業としてスタートした”Sport for Tomorrow”の大学院学位プログラム、つくば国際スポーツアカデミー（TIAS）のアカデミー長、また、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与も務める。

オリンピックと嘉納治五郎

真田久 筑波大学教授

- 序：嘉納治五郎
1. 日本のOMの始まり
 2. 東京招致の行動
 3. 嘉納精神の継承

1

嘉納治五郎 (IOC委員, 東京高師校長)

- 1860.10.28 神戸に生誕
- 1882 講道館柔道創設
- 1909 IOC委員に就任
- 1911 大日本体育協会設立
- 1912 団長としてストックホルム大会に参加
- 1936 1940年大会の東京招致成功
- 1938 洋上で永眠(77歳)



1909.5.27～1938.5.4
(IOC委員29年間)

2

IOC会長 嘉納を称賛



- 嘉納氏は、IOC創設者クーベルタン同様、スポーツを教育に欠かせないものとして実践

「オリンピックの価値
-スポーツと教育の役割」

2016.10.20

3

IPC会長、嘉納治五郎に言及



- IOC教育委員会委員長 (IPC会長) フィリップ・クレーブンのスピーチ

「嘉納氏は年齢、性、国籍の違いを超えて体育・スポーツを実践

氏は他者への尊敬というオリンピック理念の哲学を持っていたのであり、それは現在の教育プログラムに継承されている」

4

1.日本のOMの始まり

- 1908年 クーベルタンIOC会長が駐日仏大使ジェラルドに、日本人のIOC委員推薦を依頼
- 1909.1.16 両者邂逅
- 1909.5.27- IOC総会(ベルリン)にて、嘉納,IOC委員就任
- ジェラルドの書簡(クーベルタン宛 1909.1.19)
- 柔道、水泳、体育の業績で著名な東京高師校長で柔術学院創始者 嘉納氏は、IOCの任務について受け入れたいと表明
- 1889年に仏、英、独を訪れ、正確な英語を話す
- IOCの目的を日本に広めるとともに、日本のスポーツの報告書を、貴殿に送付されるとのこと

5

1909年当時の嘉納

- 講道館長
1882-
- 東京高師校長
1893-
- 宏文学院長
1896-
(留学生8000人)

范源廉 (1874-1927)

1899年に日本に渡り、東京高師に学ぶ
1902年に宏文学院設立時、講義の通訳者

1912-13、16-17、20-21年、
中華民国の文部大臣
北京師範大学学長 (1923-24年)

6

IOC就任後の活動

就任後の活動

- 1911大日本体育協会設立
(国民体育の振興)
- 1912 ストックホルム大会に参加
- 1915 東京高師に体育科設立
- 1920 アントワープ大会に参加
テニスで銀メダル



- 1923 関東大震災
死者10万人

7

関東大震災(1923)直後の活動

- 1924年パリオリンピック
内藤克彦：レスリング 3位
織田幹雄：三段跳び 6位
高石勝男：100m,1500m自由形 5位
800mリレー日本：4位
(水泳、陸上で入賞)



織田幹雄 1928年 金メダル

- スポーツ公園の設置
- 1924 明治神宮外苑競技場
- 1930s 隅田,浜町,錦糸公園

8

オリンピックでの活躍

1928 (アムステルダム)

- 三段跳 (織田) 金
- 800m女子 (人見) 銀
- 200m平泳ぎ (鶴田) 金



鶴田義行

9

1932 (ロサンゼルス)

- 水泳 5種目で金
- 三段跳び (南部) 金
- 100m吉岡6位、馬術(西) 金

2. 東京招致(1940年大会)への行動

1930年代の日本

- 1932 ロサンゼルス大会水泳で活躍
- OMに参加して20数年
- 欧州から日本まで船で2週間以上の渡航日数

「国際関係においても、今日まで我が国民は、外国に対して融和協調の態度を欠いていた。

その結果、他国からも尊敬もせられず、信頼もされず、恐れらるるに至った。

1933年 3月

- 国際連盟脱退

もしわが国民が、自他共栄の主義を対外的に実行するならば、親愛されることは必然である。」

(1925) 10

嘉納の招致活動

- 193110.28 東京市会、オリンピック大会開催建議を可決
- 1932.7.30 : IOC総会 (ロス) に出席し、ラツールIOC会長に招請状を手渡し、東京招致を表明

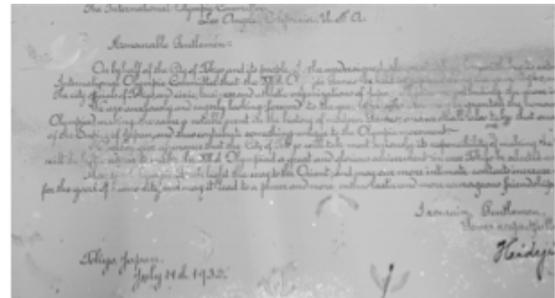
- 1933.6 : IOC総会 (ウィーン) に出席。杉村陽太郎 (国際連盟事務局次長) が日本人 3 人目のIOC委員に就任

「国際オリンピック競技大会に関する実行委員会」設置

- 1934.5.16-19 : IOC総会 (アテネ) にて、各委員に日本の写真集「スポーツ・センター・オブ・ゼ・オリエン」を配布。ローマ市が有利との感觸得る

- 急逝した岸清一IOC委員の代わりに副島道正がIOC委員就任
- 1935.2 : IOC総会 (オスロ) に杉村、副島IOC委員が出席 11

永田秀次郎東京市長→IOC委員 1932.7月



12



IOC委員 杉村陽太郎(1884~1939)

1901 高師附属中卒
講道館入門、嘉納塾

1908 東京帝大法卒

1910 仏リヨン大博士号

1927 国連事務局次長
仏、伊大使

1933 IOC委員

IOC委員 副島道正(1871~1948)

- 学習院卒 (嘉納教頭) 嘉納を支えた政治家
- 英ケンブリッジ大留学
- 京城日報社社長 1918-25, 36-47
- 貴族院議員 1934 IOC委員
- 浜口雄幸 (首相29.7-31.4)
- 若槻礼次郎 (首相26.1-27.4, 31.4-31.12) 講道館理事
- 広田弘毅 (外相1934-36, 首相36-37)

イタリアとの攻防

ムッソリーニへの働きかけ

- 日本は Far East 船、鉄道で2週間以上
- 1ヶ月も職場を休めない
- 経費がかさむ

(嘉納の反論)
そのような条件で、日本は毎回参加している
アジアで開いてこそ世界の文化になる

1933.8 ローマが強敵
荘厳なオリンピック競技場
「豪い人であるから訳を話して譲れと言えば譲るかもしれぬ」(嘉納)

1935.2.8
杉村と副島が会見
1940年は皇紀2600年
ムッソリーニがローマ市の取り下げを快諾

IOC委員への説得

1940年の東京招致

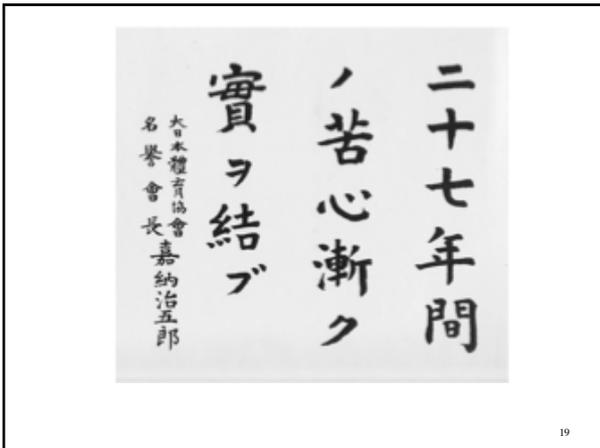
「近代オリンピック設立の意志は古代オリンピックがギリシャに限っていたに対し世界のオリンピックにすることにある、欧州と米国のみのオリンピックではない、東洋でも行わねばならない」(1936)

「オリンピックは当然日本に来ると思われるにもかかわらず若し来なければそれは正当な理由が斥けられたという事に違いない、それならば日本から欧州への参加もまた遠距離であるから、出場するには及ばないという事になる、その時は日本は更に大きな世界的な大会を開催してもよかるう」

ベルリンIOC総会 1936.7

□東京 36票
□ヘルシンキ 27票

「IOC委員に就任して27年間のオリンピック・ムーブメントが実を結んだ。今後は東京大会を世界の模範とするべく、またこれを機にオリンピックを世界の文化にせねばならない」(嘉納)



19



東京招致決定 1936年

20

クーベルタンの東京への期待

「東京でオリンピックが開催されることで、ヨーロッパ文化の基礎であるヘレニズムが、アジアの洗練された文化・芸術と混じり合う事が大事」

(1937年 クーベルタン最後の手記)

(オリンピックの理念)
◆時代とともに変化し、常に創造されていくもの(クーベルタン)

東洋の思想を入れてこそ、グローバルなオリンピック理念になる
(嘉納治五郎)

21



嘉納を出迎えるIOC委員 1938

22



バンクーバーより氷川丸で 1938

23



嘉納の葬儀 1938.5

24

3. 嘉納精神の継承

- ラツールIOC会長**
 「真の青年の教育者
 氏の想い出を永く座右の銘として忘れない
 東京オリンピックこそ、日本のスポーツを引き上げた氏の労苦に対する報酬であった」
- カール・ディーム (ベルリン大会事務総長)**
 「氏は世界で稀にみるスポーツ教育の総合的人格者」
- ブランデージ (USOC会長)**
 「立派な『サムライ』であり、典型的な教育家」
- アパーデア脚 (BOC)**
 「氏の遺志に従い、日本におけるオリンピック競技会を支える事を最大の幸福と考える」
- ピエトリ (FOC会長)**
 「日本国民は氏の真摯で勇敢な努力に深く感謝しなければならない」

25

1959 IOC ミュンヘン総会 (1964東京決定)

- 元外交官 平沢和重が招致 演説 嘉納の最期を看取った人物 (氷川丸にて)

「日本では学校の授業で生徒が皆、オリンピックを学んでいる、開催の準備ができています」と演説
- 「奇しき縁で先生の輝かしき八十年の最後の十一日間を共にした私は、心から東京オリンピックの成功を祈らざるを得ない」 (1938)

「古いIOC委員たちが嘉納との思い出を語りかけて来たように、その功績は嘉納にあった、東京オリンピックはその基礎の上に積み上げられたのだ」 (1959)

26

ミュンヘンIOC総会1959,東京招致演説で紹介された小6 国語教科書「五輪の旗」(学校図書株式会社)



27

柔道 オリンピック種目に

- 1953 嘉納履正IJF会長申請
- 1954 IOC理事会 否定 (種目数削減、国際的に新しい、参加国数少)
- A.アサード (フランス IOC) バレー、柔道、ローラースケートを加えるべき
- 1955 IOC総会、新種目なし
- 1960 IJF再申請可 (ピエトリ、ヨーゼフ・グルース、メゾー)
- IOC事務局長O.メイヤー、EJU 副会長エリック・ジョナスの支援
- 柔道はスポーツ、オリンピックの真の国際化39対2票で承認

28

オランダ

- アントン・ヘーシंक (1934-2010)

東京大会1964
無差別で金メダル

IJF教育普及理事
IOC委員



ブラジル:ラファエロ・シルバさん (柔道57Kg級金メダル)



ラファエロ・シルバ

ノーベル化学賞2001 野依良治

- 灘校時代は柔道部
- 柔道での修行がその後
に生かされた
- 「精力善用・自他共栄」
はないごとにも通じる
哲学

国際柔道連盟 規定

(前文)

柔道は1882年に嘉納治五郎先生により創られた。武術を起源とする教育的方法として1964年にオリンピック競技に認められた。

(戦争で中止となった1940年東京大会で公開競技として行われる予定であった。)

32

嘉納治五郎(高師校長、講道館長、IOC委員
日本体育協会会長、1860-1938)



「クーベルタン同様、ス
ポーツと教育の融合に尽
力(IOC会長, 2016)」

「多様性を認めた教育者、
その精神を継承すべき
(IPC会長, 2016)

柔道:精力善用・自他共栄
学校体育の位置づけ
運動部活動、運動会
日本体育協会
震災復興にスポーツ活用

留学生にスポーツ
女性の教育,スポーツ
スポーツ重視の特別学級
人種的偏見撤廃主張
東京開催による真の国際化

33

「理想的な疾走フォームを探る ～地元東京から東京五輪出場を目指して～」

東京都高体連研究部 陸上競技専門部

巣鴨高等学校

黒木 義郎

I. はじめに

近年の東京都短距離ブロックの活躍については昨年度報告させていただいた。¹⁾「東京高校」「八王子」「白梅学園」「城西」の4校のみならず、東京都全体の短距離種目のレベルが格段に向上し、全国からも「東京都は強い!」と認められている。(表1)

表1 直近3年間の東京都選手の名な活躍

2015	大嶋健太・エドバーイヨバ（東京高校）、全国高校総体 100m アベックでの2連覇 サニブラウンアブデルハキーム（城西）、U-17 世界選手権 100m・200m 2冠 東京高校女子チーム、4×100mR アジア Jr. 新記録で日本選手権リレー優勝
2016	サニブラウンアブデルハキーム（城西）、10秒22(+1.0)東京高校新記録をマーク 井上大地（東京高校）400m/400mH 2冠
2017	塚本ジャスティン惇平（城西）、全国高校総体 100m 第2位 (ダイヤモンドアスリートに認定) 愛媛国体（東京都チーム）4×100mR 男女アベック優勝

2020年に行われる東京オリンピックまで「2年半」となった。その際、ケンブリッジ飛鳥選手（東京高卒）、サニブラウン・アブデル・ハキーム選手（城西高卒）らが、候補に挙がる事は間違いないであろうが、さらに多くの選手が高校時代に力をつけ、男女ともに1人でも多くの「東京都高体連出身者」が出場することを願っている。

今回、鹿屋体育大学の松尾彰文先生のご協力のもと、同大学にて選手の疾走フォーム及び地面への力の伝わり方を測定する機会を得た。本測定及び愛媛国体での走データを合わせ、「理想的な疾走フォーム」を探り、地元東京から「東京五輪出場を目指す」とともに、今後の指導の一助とすることを目的とした。

II 方法

1. 対象

東京都高体連陸上競技専門部に所属している高校1年生の女子選手「HT」「HK」2名を対象とした。

1) HT選手について

中学時代より全国大会で活躍し、中3時には100m11秒86(+1.8)当時中学歴代5位相当の記録をマークした。高1になり、200mで南関東大会優勝、100m、200m2種目でインターハイに出場した。10月に行われた愛媛国体では少年女子B100m4位入賞、4×100mリレーでは優勝した。

『疾走フォームの特徴』

- ①ピッチよりもストライド型
- ②つま先接地
- ③腕が大きく横に振れる
- ④脚が後ろ回転（大腿部が上がらない）

2) HK 選手

中学時代は東京都の選抜選手として活躍していたが、全国的な活躍はなかった。高校1年になってから急激に頭角をあらわし、10月に行われた関東新人大会において、100m、12秒21(+0.3)をマークし優勝した。

『疾走フォームの特徴』

- ①ストライドよりもピッチ型
- ②フラット接地
- ③パワーで走るタイプ

2. 調査日及び測定場所

平成29年12月21日午前9時から12時。(外気温4~6度)

鹿児島県、鹿屋体育大学スポーツパフォーマンス研究棟内、ウレタン走路にて測定を行った。

3. 測定項目

「スタート~10m 付近のスタートダッシュフォーム」及び「30m~50m 付近の中間疾走フォーム」のモーションキャプチャー画像及びフォースプレートによる地面への力の伝わり方の測定を行なった。

Ⅲ 結果及び考察

1. 両者の疾走フォームについて

これまで、短距離の「理想的な疾走フォーム」については、以下のように時代によって大きく違っていた。

- ~1980年代 … 膝を高く上げ、地面を後方に蹴る走法。
- 1990年代 … 膝を高く上げず、地面を後方に蹴らない走法。
- 2000年代~ … 鉛直方向(真下)に力を伝え、直ぐに前方に脚を引き出す走法。

以上のように、各時代において理論が異なっていた。

被験者2名には上記のような特徴があるが、特に「HT」は中学時代から「腕が大きく横に振れる」「脚が後ろ回転」の2点を指摘されていた。今回の測定では、このような選手それぞれの疾走フォームの特徴を科学的に分析し、動きの修正をしたほうが良いのか、またはその必要はないかがポイントとなった。図1は「HT」「HK」の疾走フォームのモーションキャプチャー画像である。

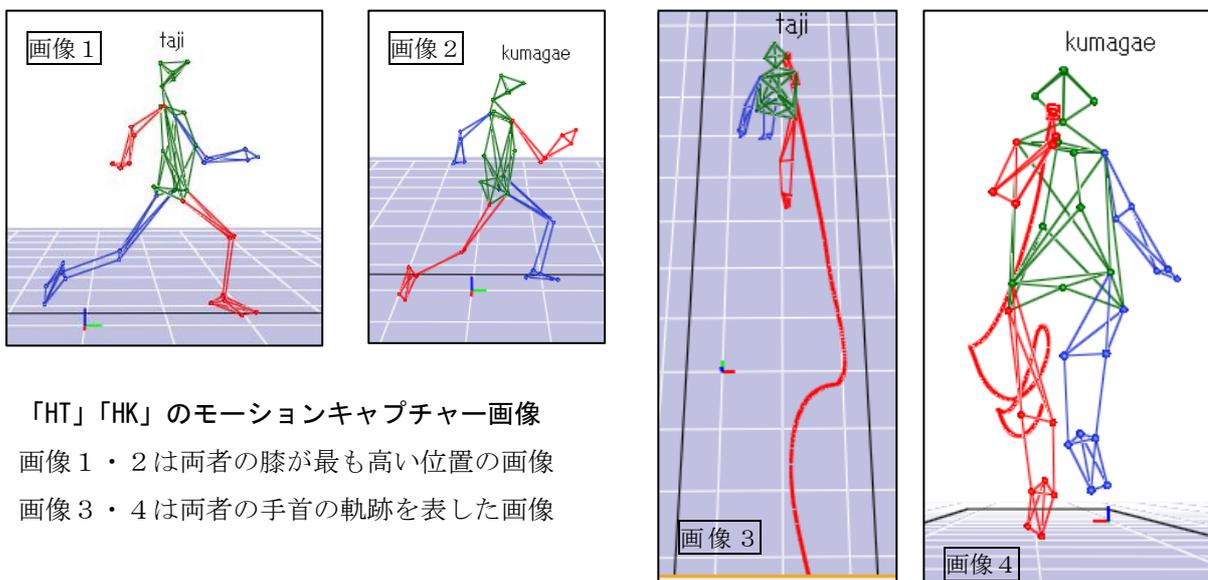


図1 「HT」「HK」のモーションキャプチャー画像
画像1・2は両者の膝が最も高い位置の画像
画像3・4は両者の手首の軌跡を表した画像

図1の画像を見ると両者には以下のような違いが認められた。

- ①「HT」上体は直立からさらに後傾気味、「HK」は若干の前傾姿勢となっている。(画像1・2より)
- ②「HT」と比較して「HK」は腕振りが高い位置で行なわれ、膝も高く挙げられている。
- ③「HK」と比較して「HT」は股関節の角度が大きい。
- ④両者ともに腕振りが外に開いているが、「HT」の方が腕の開きが大きい。

2. 「HT」と「MM(北海道)」の走データの違いについて

下表は10月に行われた愛媛国体少年女子B 100m 準決勝の走データである。

表2 愛媛国体少年女子B 100m 準決勝「HT」「MM」の走データの違い

選手	記録(秒)	RT(秒) ^{※1}	歩数		平均ストライド(m)
			100m(歩)	1秒あたり(歩)	
HT(東京)	11.97	0.168	52.7	4.466	1.897
MM(北海道)	11.66	0.169	51.0	4.439	1.961

※1 RT … リアクションタイム

「MM」は高校1年生ランキングトップの選手であり、現代理論に近い疾走フォームで走っている。

両者の記録には0.31秒の差があるが、「HT」は「MM」と比較して「1秒あたりの歩数が」僅かに多く刻んでいることが認められた。しかし「平均ストライド」が約7cm劣っており、この「1歩につき7cm」が大きな記録差となったと考えられる。

○「HT」を例に挙げ、今後の記録向上のために必要なこと。

以上の結果から、「HT」が記録向上を目指すために、「腕が大きく横に振れる、脚が後ろ回転」を修正すべきかどうかということになるが、今回の測定項目を詳しく検証した結果「必要なし」ということであった。「脚が後ろ回転」になる場合、多くの選手は走動作1歩ごとに大きなブレーキをかけながら走るようになるが、「HT」にはその傾向は見られなかった。「HT」は「腕が大きく横に振れる」のではなく、「腕を大きく横に振る」ことによって大きく骨盤を回し、脚を前方に引き出してブレーキがかからないように走っていた。従って、「HT」は大きな動きの修正は行う必要はなく、現在の疾走フォームを保ちながら、特徴であるストライドを伸ばすことで走力を上げていくことが良いとの結果を得た。

この「動きの修正なし」は「HK」も同様であり、骨盤の大きく回転させることで股関節角度を広げ、ストライドを伸ばしていくことが良いことが明らかとなった。

IV まとめ

今回、「理想的な疾走フォーム」を探り、世界で活躍する選手を育成することを目的として研究を行ったが、結果として動作の修正は必要がないとの結果であった。この結果から、走動作には科学的に分析された理想的な疾走フォームはあるが、選手個人の体格や技能によりその選手にとって最適な疾走フォームがあることが明らかとなった。従って、部活動顧問やコーチは短距離に適した基礎的体力の向上に加えて、選手の個性に合わせた指導が必要となるであろう。

「学校水泳で注意すべきこと」

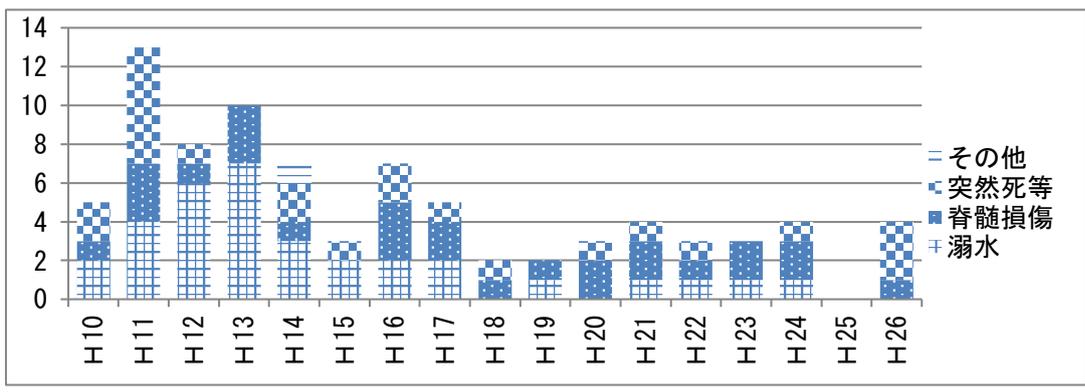
東京都高体連研究部 水泳専門部 東京大学教育学部附属中等教育学校 井口 成明

1. 学校水泳における事故の発生状況とその原因

(1) 事故の発生状況

独立行政法人日本スポーツ振興センターの災害共済給付の平成10年度から平成26年度の17年間の水泳に関わる死亡・重障害（1級～3級）の事例をみると83件（死亡51件、重障害32件）発生している。

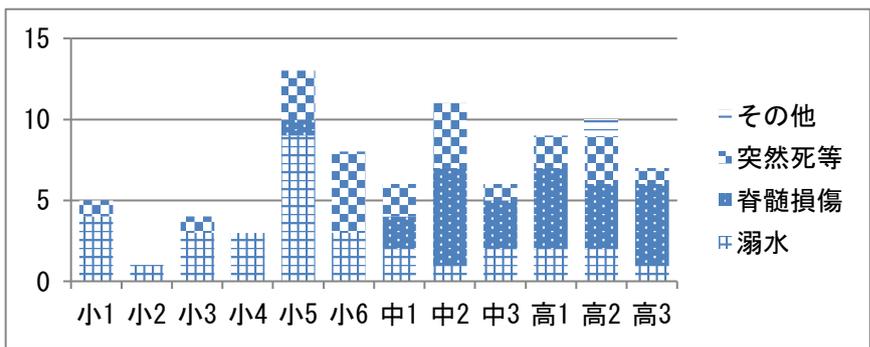
① 年度別推移



	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	計
溺水	2	4	6	7	3	2	2	2	0	1	0	1	1	1	1	0	0	33
脊髄損傷	1	3	1	3	1	0	3	2	1	1	2	2	1	2	2	0	1	26
突然死等	2	6	1	0	2	1	2	1	1	0	1	1	1	0	1	0	3	23
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	5	13	8	10	7	3	7	5	2	2	3	4	3	3	4	0	4	83

② 学年別の発生状況

「溺水」は小学校で多く、「脊髄損傷」は中学校、高等学校で多い。また「突然死等」は小学5年以降で多い。



③ 指導別

体育の授業時の事故が多いが、脊髄損傷については、運動部活動時にも多く発生している。

	体育の授業	運動部活動	体育的行事	その他課外	合計
溺水	22	2	1	8	33
脊髄損傷	11	12	0	3	26
突然死等	15	3	0	5	23
その他	0	1	0	0	1
合計	48	18	1	16	83

データ提供：独立行政法人日本スポーツ振興センター

上記のグラフデータからもわかるように、学校における水泳事故は、平成 25 年を奇跡的にゼロで報告されているが、近年（平成 28 年で 3 件）でも平均 3~4 件の報告がされている。さらにその事故は、死亡を含む重度障害事故である。今後、このような事故が起こさないようにするにはどうしたら良いのか。今回筆者は、以上の事故の発生原因とその防止対策について考究することにした。

(2) 事故の原因

溺水事故の事例から危険性を探る（「水泳プールでの重大事故を防ぐ」日本水泳連盟編集から）

- ・水泳の授業で泳力検定中。小学 3 年男子がスタート 16m 地点で「だるま浮き」のような状態で動かない状態になって発見された。
- ・体育授業中。高 2 女子はクロールと平泳ぎそれぞれ 75m 計測し、その後潜水の練習に入った。授業終了直前に 8~9 レーンの中間地点で、うつ伏せで沈んでいたのを発見された。
- ・体育授業中。中 2 男子は 50m の計測を行った。その後フリー練習の際、友人と水中鬼ごっこのようなことをしていた。再び計測が行われたころ 1 レーンと 2 レーンの間中央付近に横向きに沈んでいるのを発見した。
- ・体育の授業中。中 3 女子はクロールで 25m 泳ぎ、2 回目を泳ぎきったところで立ち上がりぼんやりしているようだったが、その後仰向けに浮いている状態になりプールサイドに引き上げたが、全身にけいれんを起こしていた。
- ・体育の授業中。高 1 男子が飛び込みスタートに失敗。頭頂部をプール底に衝突させ、うつ伏せのまま浮いてきた。

どの事故も、活発で体育が好きだった生徒が犠牲になった事故で、5 件中 4 人は死亡している。このような事故がなぜ起きてしまうのか。また、最後の生徒を除き、決して長い距離ではないが、泳いだ後に発生している。指導者は、このような事故をおこさないためにも以下の 3 点には十分配慮して指導に臨まなければならない。

【学年別水泳事故数】

	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	計
溺水	4	1	3	3	9	3	2	1	2	2	2	1	33
脊髄損傷	0	0	0	0	1	0	2	6	3	5	4	5	26
突然死等	1	0	1	0	3	5	2	4	1	2	3	1	23
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	5	1	4	3	13	8	6	11	6	9	10	7	83

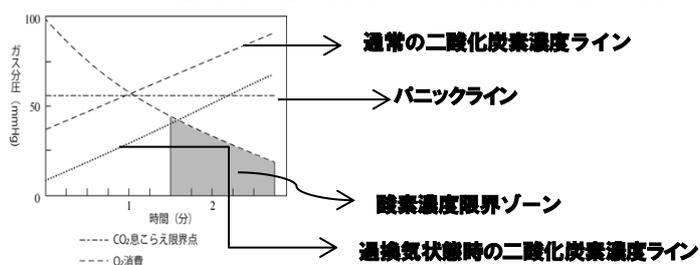
① ノーパニック症候群（「溺死事故—そのメカニズムと予防」日本水泳連盟監修から）

日本の学校のプールは、最深部でも直立姿勢なら呼吸が楽にできるくらい浅い構造のものが多い。にもかかわらず、毎年溺水事故が多く発生している。それには次の原因が考えられる。

通常の息こらえをしている場合、血液中の二酸化炭素濃度が上がって、呼吸したくなりもがきだす。これをパニック状態という。しかし、泳ぐ前に緊張すると、過呼吸に近い状態になる。また、潜水練習や潜りっこなどを、複数回繰り返していると、同様の状態の過換気という状態に陥りやすくなる。この状態で、潜水等で泳ぎ出すと、血液中の二酸化炭素濃度が上がる前に、酸素を消費されているため、息苦しさもパニック状態も起こさないまま意識をなくし溺水してしまう。

定義：水中で前兆・恐慌・呼気へのもがきなしに、急速に意識を消失する症候群

ノーパニック症候群が発症するときの体内の二酸化炭素と酸素濃度の相関図（武藤 芳照作図）



② 気管内吸水（「溺死事故—そのメカニズムと予防」日本水泳連盟監修から）

普通は気管の中に水が入ることはないのだが、溺れてしまったり、バタフライ、平泳ぎ等で泳いでいて、前方からの波で大量の水を飲みこむことがある。その瞬間に迷走神経から伸びている心臓部、特に脈の部分に刺激を受けることになる。その結果、普通60～70拍/分ある脈拍が、20拍/分くらいまで下がり、脳への血流が途絶え、死亡することもある。

③ 飛び込みスタートにおける重度障害

全国にて飛び込みスタートにおける重度障害事故は、毎年1～3件ほど発生している。では、重度障害まではないかなかったとしても、飛び込みスタートにおける失敗負傷事故は、どのくらいの割合で発生しているのだろうか。自らの経験上、毎年もっと多くの生徒が失敗し、軽い負傷事故を起こしているのではなかろうか。筆者も小学5年生の時、学校のプールで飛び込んだ時に手首と頭を強打した記憶が残っている。

そこで平成28年度に筆者は、東京都高等学校体育連盟に所属する水泳部の生徒およそ2000人にアンケート調査を実施した。その結果、水泳活動中に飛び込みスタートを行ったことによって、身体の一部を水底にぶつけた経験があると答えた生徒は、およそ700人、35%もいることが分かった。また、全体で200人近い生徒が、自らの水泳歴の中で頭部を打ったことがあると答え、更にその内40人近い生徒が複数回（5回以上）も頭を打っていることが分かった。一般の生徒より飛び込みスタートを多く練習しているはずの水泳委部員でさえも以上のような状況にあることが分かった。

ハインリッヒの法則にあるように、「災害」の規模別に比較すると、現れた数値は「1:29:300」で、1件の重大事故の発生に対して、中程度のケガ（打撲、骨折）が200人、ぶつけたことはあるが軽度な事故だったものが、700人にもものぼる。今回の東京都高体連水泳専門部の協力により、飛び込みスタート事故の発生は非常に高いことがわかった。日常生活では経験しない、落下運動を学校の水泳授業時間内（およそ6～12時間程度）で参加生徒全員が完全マスターすることはできないし、次年度までには頭で覚えていても、身のこなしまでは覚えてはられない。その状態で、「去年はできていたから」と飛び込みスタートを行い、入水角度が大きかったり、入水後の手が下方に向いていたりし、事故に繋がっていると予測できる。

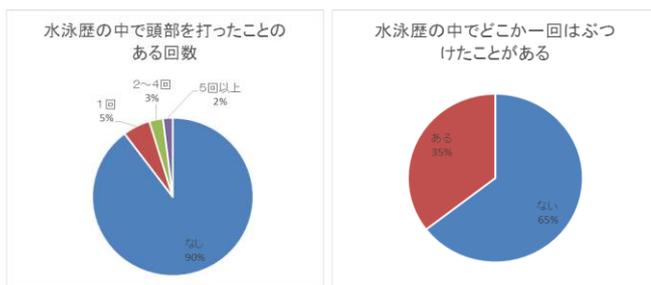


図1. 図2

水中で身体、頭をぶつめたことの経験のある生徒

「高校の水泳部におけるプール飛び込みスタートの負傷事故に関する調査研究」

アンケート回収数 1922 票

協力：東京都高等学校体育連盟水泳専門部

2. これからの水泳事故防止の安全対策

(1) シーズン前に実施しておくこと

① 水泳シーズン前に生徒と保護者に注意、連絡事項をプリントで配布する。

4月に行われる学校での健康診断の結果が良好であったとしても、水泳部の練習が始まるのが5月中旬、授業が行われるのは6月というのが屋外プールで実施している学校の現状だと思う。よって入水直前まで健康状況の変化には十分留意しておく必要がある。生徒、保護者ともに日常の生活が正常に活動できていれば、身体には問題ないと思っていることが多いようである。しかし、水泳授業は水中環境であり、水温、気候、その日の体調によって身体への影響はかなり変わってくる。持病等がある生徒の場合は、必ずシーズン前に生徒本人、保護者ともに最近の健康状況を聞いておき、記録しておくようにする。また全校生徒には50分の体育の授業時間を利用して、医学的、応急処置の知識、水泳授業でのマナーを伝えておき、保護者には、注意事項と健康チェックを実施するためのプリントを生徒各自に配布しておくようにする。

(2) 入水直前と授業中の注意

② 生徒の疲労度を確認（無理をさせないこと・監視を強化すること） できればT/Tの授業を！

前述したように、生徒が水に対する嫌悪感や苦手意識があるだけで、過呼吸症状を招きやすい状況になる。低水温、低気温、強風の天候では入水を控える。入水前の人数確認には、バディーシステムを導入し、ペアでの水慣れ、ウォーミングアップを実施させるようにする。水泳の練習は、3~4人グループで行い、泳法検査は、泳者1名、水中1名ないし2名、プールサイド（上方）から観察させ、フォームの点検をさせるとともに、事故にできるだけ早く気付くようにする。

水球や自由練習の際は、教員、見学者がプールの最低4コーナーには監視に立ち、行動が止まった生徒や様子のおかしい生徒には話しかけ、異常を教員に知らせるように指導する。

③ 飛び込みスタートについての注意

学校水泳の飛び込みスタートにおける重大事故は、日本スポーツ振興センターの調査資料から1983-2013年度の31年間に、後遺障害を負った事故が169件起きている。2000年以降についてみても2000-2006の7年間で18件（年平均2.6件）、2007-2013の7年間で20件（年平均2.9件）と事故が減少傾向にない。2015年度に限ってみても、中学校、高等学校で計3件の重大事故が発生している。授業での飛び込みスタートは、リスクが多いため原則禁止とし、水泳部であっても日本水泳連盟が策定しているガイドラインを満たしていない状況のプールであるならば、飛び込みスタートの練習は中止し、水深の深いプールの学校や公共のプール等で合同の練習を定期的に行うようにする。

スタート端壁6m付近の水深とスタート台の高さのガイドライン

プールの水深	スタート台の高さ（水面上）
1.00～1.10m未満	0.25m±0.05m
1.10～1.20m未満	0.30m±0.05m
1.20～1.35m未満	0.35m±0.05m

（日本水泳連盟編集「水泳プールでの重大事故を防ぐ」から）

日本水泳連盟は、このガイドライン運用の注意事項として、「必ずしも十分な水深がないプール施設での事故発生の危険性を、適切・合理的な飛び込み方法によって回避できることを前提にしています。」と指導、安全管理の徹底を呼び掛けている。生徒だけでの練習では、スタート練習は絶対にしないことを生徒と約束し、初心者においては段階的な指導をおこない無理のない状況からスタート練習を実施する。スタート事故の人的要因としては、スタートに対しての恐怖心と過信からくる飛び込みスタートの失敗がある

主に高校生向けに示された危険な飛び込みの例



左図のように被災した生徒は、初心者と熟練者の両者とも多く発生している。初心者の場合、恐怖心から膝が曲がった状態で顎を引き、前方に飛び出さないでほぼ垂直に水底に頭部から落下する状態で飛び込む。この状態では勢いはついていないものの自らの体重によって水底に手首や頭部、顔面を打つことになる。また、熟練者の事故は、スタート台から前方に飛び込むようにスタートせず、スタート台から一度高く（スタート台から45度以上の角度）飛び出す。その後空中で強く顎を引くことによって水中への入水角度が45度以上になる。そのため上方へ飛び出す脚力と、落下する重力加速度が合わさる状態で入水し、手首を水中で上げ、正しいストリームラインの姿勢をとったとしても、スタート時の勢いが勝り、水底に頭部、顔面、手首等を強く打ち付けることになる。

④ 救助用具、救助法、蘇生法の準備を怠らない

どんなに注意していても、溺者が出てしまった時のために、シーズン前から用具の点検、救助法、蘇生法の練習を怠らない。また、水泳の授業や保健の授業を利用して、話しかけや浮力帯を溺者に向けて投げ、救助する方法や、ダミーやAEDトレーナーを利用して人口蘇生法を学習させておくようにする。また、川や海に行く学校行事や遊びに行く生徒のために荷物にならず、携帯できる浮力帯等を用意させておくが良い。



レスキューキャップ 特定営利活動法人 海に学ぶ体験活動協議会（CNAC）提供

3 おわりに

安全教育学的にみると、事故災害が起きるには、潜在危険が必ず存在し、潜在危険を無視したり、軽視したために重大事故は発生している。日々の学校生活の中で、教師が何気なく「このままにしておく危険かも…」と感じることは、ほとんどが潜在危険である。将来が根底から変わってしまう重大事故から生徒を守るには、日頃から教師が潜在危険を見逃さない、安全管理に心がけ、生徒への安全教育も、熱心に実践していくことで、事故を削減し、事故の程度を軽減させることができると考える。

参考引用文献

- ①「学校でのスポーツ事故を防ぐために平成 27 年、28 年、29 年度版」(日本スポーツ振興センター編集)
- ②「水泳プールでの重大事故を防ぐ」(日本水泳連盟編集 2000)
- ③「溺死事故—そのメカニズムと予防」日本水泳連盟監修 1993)
- ④「中学・高等学校水泳部におけるスタート練習時の事故発生状況と顧問の危機意識等に関する一考察」(2016 年安全教育学会 井口著)
- ⑤「高校水泳部における飛び込み事故に関する調査研究—技術指導だけで失敗事故は防げるか—」(2017 年体育科教育学会発表原稿 井口著)
- ⑥「構造か指導か 学校における飛び込みスタートの事故に関する包括的研究」(2017 年体育科教育学会発表原稿 名古屋大学 内田良著)
- ⑦「事故発生年度：1983 年度～2013 年度 (31 年分)」(<http://www.dadala.net/2015.6.25> 名古屋大学 内田良著)

東京都高等学校体育連盟「研究部」規約

第一章 名称及び事務局

- 第1条 本研究部（以下「本部」という）は、東京都高等学校体育連盟研究部と称する。
第2条 本部の事務局は、会長指定の高等学校におく。

第二章 目的

- 第3条 本部は、東京都高等学校体育連盟が教育活動の一環として実施する体育・スポーツ活動に関する調査並びに研究を行い、その発展に寄与することを目的とする。

第三章 事業

- 第4条 本部は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1) 競技力向上、普及振興、安全対策に関する調査研究
2) 研究会並びに講習会の開催
3) その他本部の目的達成に必要な事項

第四章 組織及び委員

- 第5条 本部は、各競技専門部及び定通制部から選出された委員を以て組織する。
委員の任期は、2カ年とし、再任は妨げない。

第五章 役員

- 第6条 本部に下記の役員をおく。
1) 部長 1名
2) 副部長 2名（1名は委員長及び本連盟の常任理事を兼ねる）
3) 常任委員 10名
4) 監事 2名
第7条 役員は、委員会において選出する。
第8条 役員の仕事
1) 部長 部長は、本部を代表し、会務を統括する。
2) 副部長 副部長は、部長を補佐し、部長事故ある時はその職務を代行する。
委員長を兼ねる副部長は、会務を執行する。
3) 常任委員 常任委員は、会務の企画、運営にあたる。
4) 監事 監事は、本部の会計を監査する。
第9条 役員の仕事は、2カ年とし、再任は妨げない。補充によって就任した場合は、前任者の残任期間とする。

第六章 会議

- 第10条 委員会は、委員を以て構成し、必要事項を審議決定する。
第11条 常任委員会は、役員を以て構成する。常任委員会は、部長が招集し、必要事項を審議する。なお、緊急事項が生じた場合は、常任委員会で審議決定し執行する。
執行内容については、委員会に報告しなければならない。

第七章 会計

- 第12条 本部の経費は、本連盟の一般会計・研究部費、その他を以てこれにあてる。
第13条 本部の会計は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第八章 附則

- 第14条 本規約は、本連盟常任理事会の議決を得て変更することができる。
第15条 本規約は、平成13年11月16日より施行する。
(経過) 1. 平成19年4月26日 第一次改定
2. 平成21年4月18日 第二次改定

役員を選出する細則

- 1)部長は、都内高等学校長より選出する。
- 2)副部長2名（1名は委員長及び常任理事を兼ねる）は、委員の互選により選出する。
- 3)常任委員は、委員の互選により10名を選出する。
(各分科会代表3名、団体種目系3名、個人種目系2名、武道系2名)
- 4)委員は、各専門部・定通制部の互選とする。(各専門部より若干名、定通制部より1名)
- 5)監事は、委員の互選とする。

東京都高等学校体育連盟

<研究部> 組織と名簿

平成29年度 2017年

役職名	氏名	専門部	所属	勤務校	〒	所在地	電話	FAX	研究部役職	教科
部長	庄司一也			都晴海総合	104-0053	中央区晴海1-2-1	03-3531-5021	03-3531-5024	都高体連副会長	
副部長 (委員長)	塩田伸隆	空手道	武道	都立松原	156-0045	世田谷区桜上水4-3-5	03-3303-5381	03-3304-3062	都高体連常任理事	理科(化学)
副部長 (副委員長)	中塚義実	サッカー	団体	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848		保健体育
常任委員	黒須崇仁	陸上競技女子	個人	江戸川女子	133-8552	江戸川区東小岩5-22-1	03-3659-1241	03-3659-4994	第1分科会チーフ	保健体育
〃	堀越和彦	自転車競技	個人	日本学園	156-0043	世田谷区松原2-7-34	03-3322-6331	03-3327-8987	第2分科会チーフ	英語
〃	柳澤左門	ボート	団体	都立日本橋	131-0041	墨田区八広1-28-21	03-3617-1811	03-3612-5396	第3分科会チーフ	保健体育
〃	鞠子智秋	サッカー	団体	都立清瀬	204-0022	清瀬市松山3-1-56	042-492-3500	042-491-9491		保健体育
〃	奥 正克	ハンドボール	団体	都立小金井北	184-0003	小金井市緑町4-1-1	042-385-2611	042-382-9522		地歴
〃	高倉千草	バレーボール女子	団体	都立第四商業	176-0021	練馬区貫井3-45-19	03-3990-4221	03-3926-7040		保健体育
〃	征矢範子	陸上競技男子	個人	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848		保健体育
〃	阿部一臣	バドミントン	個人	都立東村山	189-0011	東村山市恩多町4-26-1	042-392-1235	042-392-7275		英語
〃	工藤慶之	少林寺拳法	武道	帝京	173-8555	板橋区稲荷台27-1	03-3963-6385	03-3963-2430		数学
〃	秋月 隼	弓道	武道	都立美原	143-0012	大田区大森東1-33-1	03-3764-3883	03-3764-3854		理科(化学)
会計	新井理仁	ソフトボール	団体	都立東大和	207-0015	東大和市中央3-945	042-563-1741	042-565-0781		英語
監事	牧野飛人	軟式野球	団体	私立中央大学高	112-8551	文京区春日1-13-27	03-3814-5275	03-3814-5278		社会
〃	倉田あゆみ	卓球女子	個人	都立若葉総合	206-0822	稲城市坂浜1434-3	042-350-0300	042-350-0303		国語

氏名	専門部	所属	勤務校	〒	所在地	電話	FAX	研究部役職	教科
征矢範子	陸上競技男子	個人	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848	常任委員	保健体育
曾根原龍大	陸上競技男子	個人	日本大学豊山	112-0012	文京区大塚5-40-10	03-3943-2161	03-3943-1991		数学
黒須崇仁	陸上競技女子	個人	江戸川女子	133-8552	江戸川区東小岩5-22-1	03-3659-1241	03-3659-4994	第1分科会チーフ	保健体育
笹川浩司	陸上競技女子	個人	都立板橋	173-0035	板橋区大谷口1-54-1	03-3973-3150	03-3959-6591		保健体育
松永航平	バスケットボール女子	団体	東京電機大学高	184-8555	小金井市梶野町4-8-1	0422-37-6441	0422-37-6821		国語
杉浦翔太	ボクシング	武道	都立荒川工業	116-0003	荒川区南千住6-42-1	03-3802-1178	03-3802-8218		工業(電気)
高倉千草	バレーボール女子	団体	都立第四商業	176-0021	練馬区貫井3-45-19	03-3990-4221	03-3926-7040	常任委員	保健体育
阿部一臣	バドミントン	個人	都立東村山	189-0011	東村山市恩多町4-26-1	042-392-1235	042-392-7275	常任委員	英語
中島弘貴	テニス	個人	富士見	176-0023	練馬区中村北4-8-26	03-3999-2136	03-3999-2129		社会(公民)
吉志野潤哉	体操男子	個人	成城	162-8670	新宿区原町3-87	03-3341-6141	03-3341-3165		保健体育
新井理仁	ソフトボール	団体	都立東大和	207-0015	東大和市中央3-945	042-563-1741	042-565-0781	会計	英語
奥 正克	ハンドボール	団体	都立小金井北	184-0003	小金井市緑町4-1-1	042-385-2611	042-382-9522	常任委員	地歴
井口成明	水泳	個人	東大教育学部附属中等教育学校	164-8654	中野区南台1-15-1	03-5351-9050	03-3377-3415		保健体育
田中康之	サッカー	団体	都立立川	190-0022	立川市錦町2-13-5	042-524-8195	042-527-9906		保健体育
牧野飛人	軟式野球	団体	私立中央大学高	112-8551	文京区春日1-13-27	03-3814-5275	03-3814-5278	監事	社会
久根下和利	ウェイトリフティング	個人	東亜学園	164-0002	中野区上高田5-44-3	03-3387-6331	03-3387-6335		保健体育
佐藤貴文	水泳	個人	都立足立	120-0011	足立区中央本町1-3-9	03-3889-2204	03-3880-6757		保健体育
田草川直希	ラグビー	団体	都立墨田工業	135-0004	江東区森下5-1-7	03-3631-4928	03-3846-6638		数学

氏名	専門部	所属	勤務校	〒	所在地	電話	FAX	研究部役職	教科
諏訪幹人	アーチェリー	武道	東海大学付属高輪台	108-8587	港区高輪2-2-16	03-3448-4011	03-3448-4020		数学
滝田裕幸	スキー	個人	麻布	106-0046	港区元麻布2-3-29	03-3446-6541	03-3444-2337		英語
堀越和彦	自転車競技	個人	日本学園	156-0043	世田谷区松原2-7-34	03-3322-6331	03-3327-8987	第2分科会チーフ	英語
田中玄太	卓球男子	個人	日本大学豊山	112-0012	文京区大塚5-40-10	03-3943-2161	03-3943-1991		情報
倉田あゆみ	卓球女子	個人	都立若葉総合	206-0822	稲城市坂浜1434-3	042-350-0300	042-350-0303	監事	国語
高田文裕	レスリング	武道	日本工業大学駒場	153-8508	目黒区駒場1-35-32	03-3467-2130	03-3467-2165		保健体育
安海友貴	フェンシング	武道	都立王子総合	114-0023	北区滝野川3-54-7	03-3576-0602	03-3576-0615		保健体育
湯川 泉	空手道	武道	都立大崎	142-0042	品川区豊町2-1-7	03-3786-3355	03-3782-4059		保健体育
塩田伸隆	空手道	武道	都立松原	156-0045	世田谷区桜上水4-3-5	03-3303-5381	03-3304-3062	委員長	理科(化学)
六車健吉	ライフル射撃	武道	明治大学付属中野	164-0003	中野区東中野3-3-4	03-3362-8704	03-3368-3113		芸術(美術)

氏名	専門部	所属	勤務校	〒	所在地	電話	FAX	研究部役職	教科
平野真央	体操女子	個人	大妻女子	102-8357	千代田区三番町12	03-5275-6057	03-5275-6093		保健体育
久保田直実	バスケットボール男子	団体	都立両国	130-0022	墨田区江東橋1-7-14	03-3631-1815	03-3846-6682		保健体育
加藤正紀	ソフトテニス男子	個人	都立雪谷	146-0085	大田区久が原1-14-1	03-3753-0115	03-3754-7871		英語
千野秀章	ソフトテニス女子	個人	豊南	171-0042	豊島区高松3-6-7	03-3959-5511	03-3959-5516		国語
徳田泰宜	バレーボール男子	団体	日本大学櫻丘	156-0045	世田谷区桜上水3-24-22	03-5317-9300	03-3304-4328		保健体育
伊賀章子	スケート	個人	法政大学	182-0002	三鷹市牟礼4-3-1	0422-79-6230	0422-79-6261		英語
鞠子智秋	サッカー	団体	都立清瀬	204-0022	清瀬市松山3-1-56	042-492-3500	042-491-9491	常任委員	保健体育
中塚義実	サッカー	団体	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848	副委員長	保健体育
秋月 隼	弓道	武道	都立美原	143-0012	大田区大森東1-33-1	03-3764-3883	03-3764-3854	常任委員	理科(化学)
中村豪介	アメリカンフットボール	団体	麻布	106-0046	港区元麻布2-3-29	03-3446-6541	03-3444-2337		保健体育
君塚善宏	柔道	武道	巣鴨	170-0012	豊島区上池袋1-21-1	03-3918-5311	03-3918-5305		保健体育
児玉 勝	剣道	武道	都立武蔵丘	165-0031	中野区上鷲宮2-14-1	03-3999-9308	03-3926-9012		保健体育
児玉朋幸	相撲	武道	明治大学付属中野	164-0003	中野区東中野3-3-4	03-3362-8704	03-3368-3113		英語
田中鶏郎	なぎなた	武道	文化学園大学杉並	166-0004	杉並区阿佐谷南3-48-16	03-3392-6636	03-3391-8272		数学
柳澤左門	ボート	団体	都立日本橋	131-0041	墨田区八広1-28-21	03-3617-1811	03-3612-5396	第3分科会チーフ	国語
野中 純	ホッケー	団体	早稲田高等学院	177-0044	練馬区上石神井3-31-1	03-5991-4151	03-3928-4110		数学
櫻井幹久	登山	団体	安田学園	130-8615	墨田区横綱2-2-25	03-3624-2666	03-3624-2668		地歴
工藤慶之	少林寺拳法	武道	帝京	173-8555	板橋区稲荷台27-1	03-3963-6385	03-3963-2430	常任委員	数学
杉村曉美	チアリーディング	団体	駒澤大学高等学校	158-8577	世田谷区上用賀1-17-12	03-3700-6131	03-3707-5689		公民